

普及活動情勢報告（令和 6 年 10 月分）

高吾農業改良普及所

イチゴ定植しました！！ ～JA高知県佐川支所苺部会～



定植されたイチゴ

9月下旬から10月上旬にかけて、佐川支所苺部会の生産者14名がイチゴの定植を行いました。

普及所は、育苗期の炭そ病やハダニ類等の病虫害防除や花芽分化促進に向けた肥培管理について情報提供を行いました。

今年は平年に比べ平均気温が高く、花芽分化が遅れる傾向があり、定植作業が遅れる生産者も見られました。生産者からは「年々、気温が上昇し、花芽分化が遅れてきている。気候変動に対応した管理が必要。」と言った声が聞かれました。

普及所は12月から1月の収穫開始に向けて、巡回等を通して適切な栽培管理の情報を提供していきます。

障がい者の自立と農業分野の労働力不足解消を両立！～越知町農副連携支援会議を設立～



越知町農副連携支援会議の様子

9月20日、越知町農福連携支援会議の設立総会を開催しました。普及所の他、越知町及び県の農業と福祉の担当部署、越知町社会福祉協議会、JA高知県、越知町の山椒生産者、就労継続支援B型事業所が参集し、会議の規約や活動計画が承認されました。

参加した関係機関から、業務のマッチングに向けた協議の持ち方や、福祉事業所への業務委託方法、生活困窮者の就労への対応などの意見が交わされました。

また同日に普及所が刻みサンショウの出荷調製作業の農福連携体験研修を開催し、15人が参加しました。普及所は今後も農福連携体験研修などを通じて農業者と福祉事業者の間の相互理解と業務のマッチングを進めていきます。

「仁淀川町茶生産・販売・振興計画」説明会を開催 ～茶産地の未来に向けて～



振興計画に関する意見交換

9月30日、仁淀川町が「仁淀川町茶生産・販売・振興計画」の説明会を開催し、出席した茶農家と関係機関で仁淀川地域における茶産地の将来ビジョンについて意見交換を行いました。

仁淀川町からは、茶産地の現状及びこれを踏まえた指標と対策について説明があり、出席者で共有されました。

出席した農家からは、茶の所得向上には販路拡大や製品率向上などの出口戦略が重要であること、また7月に着任した地域おこし協力隊2名が茶産地の担い手として定着するよう施策を実践してもらいたい、などの意見が出されました。

普及所は、仁淀川町と共に、茶振興計画の目標達成に向けた活動への支援を実施していきます。